



# Signs on the Way

Bible Studies for the Anglican Communion  
in the Year of the Lambeth Conference

**途上のしるし**

2008年ランベス会議の年における全聖公会のための聖書の学び

## カナの婚礼のしるし

### ヨハネによる福音書 2章 1-11 節

---

---

祈りと共に聖書の学びを始めましょう。

グループで学ぶ場合は一人が聖書箇所を声に出して朗読しましょう。一人で学ぶ場合は、ゆっくり、丁寧に、聖書箇所を読みましょう。

---

しばらくの沈黙の後、以下を読んで下さい：

四つの福音書はそれぞれイエスの宣教を特徴のある声で語り、イエスの死と受難の異なる側面に光を当てています。キリスト教の神学者たちは、紀元三世紀から、これら福音書は相互の関係において読んで始めて聖書として正しく理解されることを教えてきました。実際、初期には、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネを合わせて一つの福音書をつくり出そうとする試みが幾度もありましたが、教会は、そうした試みを拒否したのでした。ですから、聖書の学びにおける一つの課題は、私たちの前に開かれている聖書箇所です。特に何が述べられているのかを明らかにし、その箇所が私たちにもたらす効果に注意を払うことです。

ヨハネ福音書の特色は一見単純に見える語りの中に神学的な意味を込めるその仕方にあります。話の細部において、ヨハネはしばしば彼の福音書を複数の次元で読むように誘っています。ヨハネは、私たちが読んでいるのは、ずっと昔に起きた出来事についてのものであるのと同時に、その臨在を私たちが自らの生の中ですでに知っている復活のイエスについての話であることを、常に意識させるのです。福音書の最後では(20章 31節)、これらのしるしを私たちがどのように読むのかは本当に重要なのだと、ヨハネは私たちに向かって直接に語りかけています。

七つのしるしの中の最初のもは、マタイ、マルコ、ルカが記す何れの奇跡とも異なる唯一のもです。このしるしは、ヨハネ福音書が記すイエスの全宣教が従うこととなる一つの範型を示しています。変えられることが、明瞭に、主題となっているからです。中心に置かれているイメージは水がぶどう酒に変えられることです。少なくとも表面的にはそれがこの話の全てです。ぶどう酒が足りなくなった時、イエスはあり余るほどのぶどう酒を与えました。6-7節によると、それは450~680リットルものぶどう酒だったということです。この話のクライマックスの9-10節には、そのことをさらに驚くべき出来事とするようなことが書かれています！弟子たちにとって、この奇跡は何を意味したでしょう。弟子たちの期待が彼らの聖書(私たちの旧約聖書)の言葉やイメージから形成されていたことを考慮して考えてみましょう。弟子たちがそのように見たとヨハネが私たちに語っているようにカナの出来事を見始めることができるように、まずそれらのイメージを知らねばなりません。アモス書9章 13-15節やイザヤ書 25章 6-9節を読むと、少しは自分たちの読み方から弟子たちの読み方に近づくことができるでしょう。

◆質問1：預言者のアモスやイザヤのこれらの言葉に照らすと、カナで水がぶどう酒に変えられたことは、弟子たちにとってどんな意味を持ったのでしょうか。彼らは何を信じたのだと思いますか(11節)？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

ヨハネ福音書を初めて読んだクリスチャンたちは、花婿と婚礼の祝宴の意義について、イエスについての伝承やイエスの教えから理解したことでしょう。次の質問でそうした伝承について考えるにはマルコ福音書2章18-20節とマタイ福音書22章2節を読んでください。

◆質問2：これらの伝承によって、イエスが示された最初のしるしについて、どのように理解を深められますか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

3-4節のイエスと彼の母の短いやりとりも、ヨハネが読者に彼の福音書の物語に複数の意味を見いだすように促すやり方を示しています。ヨハネ福音書の物語は、イエスが行ったことと、それに対する様々な人の応答を描いていますが、それらは、イエスが誰なのかも示しているのです。例えば、この3-4節には、単にぶどう酒に関する会話が交わされているのではなく、それ以上のことが起こっていることが示唆されています。ヨハネはマリアのことを四回にわたって「イエスの母」と書いていますが、しかしイエスは彼女を「婦人」と呼ぶのです。ギリシア語の世界では、これは、男性が縁者でない女性を呼ぶときの敬意を込めた言い方でした。例えば、ヨハネ福音書4章21節、8章10節、20章13節、マタイ福音書15章28節、ルカ福音書13章12節などに、同じ表現を見ることができます。しかし、息子がこのように母を呼ぶことはありませんでした。ヨハネは「婦人」という普通でない呼び方に私たちの注意を引いているのでしょうか。イエスが母を「婦人」と呼ぶのは他には一度しかありません。そして、4節の「わたしの時はまだ来ていません」という母への言葉は、私たちの注意をそこへ向けます。ヨハネは再び私たちに、イエスの宣教の全てが最初から十字架に向けられているという神秘について考えるよう誘っているのです（「時」の意味については、ヨハネ8章20節、16章23節、17章1-5節を参照のこと）。さあ、19章25-27節を読みましょう。そこでイエスは再び母を「婦人」と呼んでいます。

◆質問3：カナの物語におけるマリアの登場は、あなたにとってどんな意味がありますか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

6-10節には舞台裏で何が起きているかが詳しく語られています。言葉にされていないのは、7節と8節の間で起こる奇跡的な変化です。その代わりに、ヨハネは、私たちの注意を、人間が変えられることに向けています。

◆質問4：イエスが婚礼の席にいることは、6-10節に登場する様々な人物に、どのような変化の効果をもたらしていますか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

ヨハネ福音書の読者たちはもちろん、弟子たちと違って、話の結末を知っています。この聖書箇所を通して、ヨハネが言葉やイメージを標識として使って読者をどのように導くかを見てきましたが、11 節ではヨハネはもっと直接的に私たちに語りかけているように思われます。11 節にある三つの標識となる言葉の中で、栄光については少し説明が必要でしょう。旧約聖書では、栄光とは、見えない神の聖性と力の、外への目に見える顕現です。例えば、荒野でイスラエルの人々を養ったマナや(出エジプト記 16 章 7-10 節)、旅のあいだ彼らと共にあった雲と火のように(出エジプト記 40 章 34-38 節)。「イエスはその栄光を現された」というヨハネの表現は、序章に、特に 1 章 14 節に私たちに引き戻します。同時に、それは、ほかに栄光という言葉が使われている唯一のものである最後のしるしを予期させます(11 章 40 節を参照)。とくに重要なのは、この早くも垣間見られるイエスの栄光がどのように十字架に向けられているかという点です。十字架においてイエスは栄光のうちに御座につくのです(17 章 1-5 節)。

◆質問 5：ヨハネ福音書の読者としてのあなたに、11 節の標識となる言葉、「最初のしるし」、「その栄光を現された」、「弟子たちはイエスを信じた」は、それぞれ何を語りかけてきますか？

この質問について十分に話し合ったら、次の祈りを持って結びましょう：

主イエスよ、私たちを変えるあなたの栄光が明かされるとき、それを見るための目を、それを知るための心を、私たちに与えて下さい。アーメン

---

## 王の役人の息子を癒すしるし

ヨハネによる福音書 4章 46-54節

---

---

祈りをもって聖書の学びを始めましょう。

グループで学ぶ場合は一人が聖書箇所を声に出して朗読しましょう。一人で学ぶ場合は、ゆっくり、丁寧に、聖書箇所を読みましょう。

---

しばらくの沈黙の後、以下を読んで下さい：

ヨハネ福音書に書かれている7つのしるしの中で、王の役人の息子を癒すしるしは、少々見過ごされがちです。しかし、しるしについての適切な理解を持つならば、私たちはこの箇所によって非常に重要なことに気づかされます。最初のしるしと同じように、この物語は、ガリラヤのカナでの出来事とされ、前のしるしとの明白な繋がりにおいて語られています。婚礼の祝宴で水をぶどう酒に変えたとき、イエスはその後の宣教の範型を打ち立てられました。王の役人の息子のこの癒しに、その実例を見ることができるのです。患いは癒しに、死は生になります。どちらのしるしにおいても、イエスの言葉を聴き、信じ、従うことの重要性が明らかにされています。2章5節では、イエスの母マリアは、祝宴の召し使いたちに「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言います。この箇所では、王の役人は、およそ一日の距離にあるカファルナウムへ「イエスの言われた言葉を信じて帰って行った」と書かれています。子どもが癒されたこと、それはカナでイエスが癒しの言葉を言われたのとまさに同じ時刻のことだったと彼が知るの、家の近くまで来てからでした。

これら二つの出来事には、もう一つの共通点があります。どちらの箇所でも、驚くほどイエスが不機嫌でぶっきらぼうに言葉をかけているように思われるところがあります。婚礼では母に向かって、この話では息子を癒すよう頼んでいる父親に向かって。婚礼では、ぶどう酒がなくなったという母の言葉に対する最初の応答は、それは自分の知ったことではないというものでした。病んだ子どもの父親の場合には、癒してほしいという願いに対して、まず、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」と言われました(48節)。しかし、どちらの場合にも、イエスが話しかけている相手はあきらめません。そしてイエスは願いを容れて行動をおこすのです。

ヨハネ福音書のこの二つ目のしるしが語っていることを理解するには、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」という非難の意が明らかなイエスの言葉を真剣に受け止める必要があります。共観福音書では「しるし」は否定的に使われています。例えばマタイ福音書12章39節には、「よこしまで神に背いた時代」の者たちであるから人々はイエスに「しるし」を求めるのだと書かれています。他方、ヨハネ福音書では「しるし」は通常は肯定的に見られています。もっとはっきり言えば、しるしは、福音

書に書かれていることの背後にある目的そのものと繋がっています。「これら（しるし）のことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである」（20章31節）とある通りです。ヨハネ福音書4章48節は「しるし」という言葉が否定的に使われていることが明らかな一例です。しかし王の役人の子どもの癒しが離れた場所で起こるこの話の中であって、それは、しるしの真の意味について大切なことを教えるものとなっています。父親は、イエスの癒しの言葉を、その結果を「見る」機会を持つ前に受け入れています。しるしや不思議な業を見ることなく彼が信じているということが、話の中ではつきりさせられているのです！ヨハネ福音書は、その「皮肉」でよく知られていますが、この箇所は、その見事な例と言えましょう。

ヨハネが私たちに理解させようとしているのは、イエスの「しるし」は、人々に信仰を強制するために考案された神的な舞台手品などではないということです。ヨハネ福音書を読み進めて多くのしるしを見る前に、ヨハネは私たちにそのことをちゃんと理解させたいのでしょうか。ヨハネ福音書を通して、イエスを信じること、イエスによって信じることは、神との自由でありながら親密で個人的な関係におけるものであることが必要であることが、繰り返し明らかにされています。この関係の発展につれて、次第に目が開かれ、今も続く神の創造の働きへの気づきが可能にされるのです。「しるしを見る」力と信仰は確かに相伴うものです。しかし、それは、「しるし」によって人間が否応なく信仰に入れられる、ということではないのです。また、イエスは、衝撃的な奇跡の披露を求める人々を堪忍しません。そのような奇跡から生まれる「信仰」は、偽の、欠陥あるものとなるでしょう。そうではなく、神は、ヨハネ福音書の登場人物や読者の私たちを、真に変えるものであり、真に変えられたものである新しい創造をイエスと共にするよう招き、命の内へと呼び入れているのです。

次の質問について考え、話し合ってください。

◆質問1：この話の中では、どんな変化が起こったのでしょうか。私たちは、自分の教会にあって、この話から神の変える力について何を学ぶことができるのでしょうか。

◆質問2：この聖書箇所は、子どもの父親に加えて「家族もこぞって」信じたと締めくくっています。なぜ、そのことは、この話の中で重要なのでしょうか。

◆質問3：あなたは「しるしを見ること」はクリスチャンにとって助けになると思いますか？「しるし」は私たちの信仰にとって時には危険なのでしょうか。

この質問について十分に話し合ったら、次の祈りを持って結びましょう：

全能の神よ、どうすることもできないと感じるとき、つねに、あなたの言葉を信じ、あなたの助けを求めるようにさせてください。私たちの主教とその伴侶の方々が、ランベス会議における分かち合いの全てを通して変えられますように。旅路にある彼らを私たちが支えることができますように。アーメン

## 羊の門の傍らにおける癒しのしるし

ヨハネによる福音書 5章 1-18節

---

---

祈りをもって聖書の学びを始めましょう。

グループで学ぶ場合は、四人が語り手、イエス、病んだ男、ユダヤ人たちの役を分担して、劇仕立てで読んでみましょう。一人で学ぶ場合は、注意深く読みましょう。

---

以下の質問について、話し合ったり考えたりして下さい：

◆質問1：あなたたちの間では、この箇所をどのように解釈するのが一般的ですか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

この福音書のあちこちで、様々なユダヤの祭りが言及されています。例えば2章13節と4章45節には過越祭、6章4節にも過越祭、7章2節には仮庵祭、10章22節には神殿奉献記念祭、12章1節には再び過越祭が出てきます。その度にヨハネは、イエスが祭りの目的を成就し、さらにそれを超えたものを成し遂げることを示します。ここ5章1節で言及される祭りが何なのかは示されていません。おそらくヨハネは「祭り」という言葉を代表的な意味で使っているのでしょう。これが何の祭りなのかは分かりませんが、それが誰によって祝われるものなのかは分かります。神殿の町、エルサレムに入るにあたってイエスが注意を向けられるのは、祭りに参加しない人たち、すなわちベセスタの池に集まっている「目の見えない人、体の麻痺した人」です。

◆質問2：この聖書箇所における祭りとあなたの生きている状況との間で共通の政治的なものは何でしょうか。誰が含まれていて、誰が排除されているのでしょうか。祭りは誰の利益に奉仕するものなのでしょうか。

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

ヨハネは「目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人」を「病気で苦しんでいる人」という言葉でまとめています（英語では、病気であること、法的効力を持たないことのどちらの意味でも使われる”invalid”という言葉で訳されている）。学者が言うように、イエスの時代の地中海文化では、全ての病は社会的禁忌を反映するもの、身体的病は社会的不能も意味しました。彼らはいわば「力をなくされた者(in-valid-ates)」だったのです。そのような文化にあっては、病者は、社会で周縁化され拒絶された者であり、塵芥でした。宗教的に組織された共同体でいかに社会の病が現れるかということに気づかされます。目の見えない人、足の不自由な人、体の麻痺した人は、自分たちが属する共同体の祝祭から排除され、各自の運命に捨て置かれたのです。私たちは、ヨハネやイエスがしたように、病気で苦しんでいる人たちの間の関係に注目することもできます。三十八年間も病んでいた男の話で当惑させられるのは、病気で苦しんでいる人々の間における協力の欠如です。

彼らは協力し合わず、むしろ競い合います。5章7節にイエスへの男の訴えが記されています。「主よ、水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」

◆質問3：この聖書箇所の中に、池畔の病気で苦しむ人々の間でなぜ協力が欠けているのかを理解する手がかりは与えられているのでしょうか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

ヨハネは、助け手のない病んだ男の話に、二人の少年が関わる話で枠組みを与えています。ヨハネ福音書4章45-54節（直前の箇所）では、王の役人の息子が、政治的、経済的な力のある家族の強力な支援をもつ者として描かれています。病んだ少年の癒しのため、たくさんの人々が執り成し、訴えています。ヨハネ福音書6章1-14節（直後の箇所）で、私たちはもう一人の少年に出会います。今度は手段を持っているのは少年自身です。少年は大麦のパン五つと魚二匹を持っていて、腹を空かせた群衆と喜んで分かち合おうとしています。イエスの弟子のアンデレが協力していることもうかがえます。ヨハネは、羊の門の傍らの池畔での癒しの出来事を、イエスが「命」（4章53節）をもたらし、「充足」（6章12節）をもたらすことを可能にする協力の形があるこれら二つの物語ではさんでいるのです。

◆質問4：この語りの枠組みは、手段、力、イエス、共同体、そしてクリスチャンのミッションについて、何を語っているのでしょうか。

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、次の祈りで結びましょう：

恵みにあふれる命の神よ、あなたが回復と癒しの賜物と慈悲をもって、私たちが様々な仕方で救ってくださることを感謝いたします。私たちの共同体から、力のない者の間の連帯を弱めたり、競い合わせたりするような、悪意や利己心に満ちた策略を取り除いて下さい。想像力あふれる心と精神を与え、あなたの苦しめる子どもたちの癒しのために必要なものを、私たちが身のまわりで見いだし、役立たせることができるようにしてください。私たちが為すことの全てにおいて、命を満たされるあなたの約束の到来を告げる道具として用いられますように。それは、あなたの御子、私たちの主イエス・キリストがこの世にあって働いておられるしるしです。アーメン

---



## 群衆に食べ物を与えるしるし

ヨハネによる福音書 6 章 1-15 節

---

---

祈りをもって聖書の学びを始めましょう。

グループで学ぶ場合は、語り手、イエス、フィリポ、アンデレ、群衆の役を分担して、ゆっくりと劇仕立てで読みましょう。一人で学ぶ場合は、注意深く読みましょう。

---

しばらくの沈黙の後、以下を読んで下さい：

これは四つの福音書の全てで語られている唯一の奇跡です。

◆質問1：これまでのあなたの人生で、この話はどんな意味を持ちましたか？

この話に関わって思い出されることを分かち合ったら、次の質問に移して下さい。

◆質問2：イエスは 5 節でフィリポに質問をしています。フィリポについて私たちがヨハネ福音書で既に知っていることはどんなことでしょうか。(1 章 43-51 節を参照)

◆質問3：なぜイエスは 5 節で特にフィリポに質問をしたのだと思いますか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

イエスは場所について質問しているのに（「どこでパンを買えばよいだろうか」）、フィリポは手段について答えていることに注目しましょう（「二百デナリオンでは十分にパンを買えないでしょう」）。一デナリが一日の基本賃金でした。アンデレが食べ物はあると言いますが、しかし明らかに全く足りていません。弟子たちは二人とも手段がないことばかりに注意を向けています。するとイエスは手段が十分であることを示します。

◆質問4：この場面で使うことのできる手段として何があるのでしょうか。文中からあげてみてください。

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

これらの手段は増えることに注目しましょう。群衆が「満腹した」後、まだたくさん残っています。実に手段はありあまるほどにあるのです！

この話は少なくとも二つの次元で理解することができます。飢えた人々に本物の食べ物を与える話として物質的な次元において理解できますし、イエスがモーセに匹敵もしくは凌駕している話として象徴的な次元において理解することもできます。物質的な次元においては、イエスは、5 章で人々の実際の病を案じられたように、人々が実際に飢えていることを明らかに案じています。イエスは、病を患う人、飢えている人に、命を与えるために来られたのです。本当の命を！

◆質問5：あなたの状況では、実際に癒しや食べ物を必要としているのは誰ですか？彼らを癒し、食べ物を与えるために、どんな手段を持っていますか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

この話は象徴的に理解することもできます。この話がエルサレムでのイエスについて語られた後に続いていることに注目しましょう。エルサレムでイエスは安息日に人を癒したことをめぐってユダヤ人の指導者たちと対立します。イエスは、聖書や神の意図されていることについて本当の理解を持っていないとして、彼らに異議を申し立てます。彼らは自分たちがモーセに倣うものであると主張しているが、彼らを非難しているのはモーセ（そしてモーセが受けた律法を記した書である聖書）に他ならないと言って、それを締めくくります。「モーセを信じたのであれば、わたしをも信じたはずだ。モーセは、わたしについて書いているからである。」(5章46節)

5章でイエスはエルサレムにいましたが、6章ではガリラヤに移っています。大勢の群衆に後を追われているのは、ガリラヤにおいてのことです。群衆の中にはエルサレムでイエスが病の男を癒すのを見た人たちもいたでしょう。6章で起こることと旧約聖書のモーセの物語で起こったことの類似点に注目しましょう。モーセが山に行くために葦の海を渡ったように、イエスも山に行くためにガリラヤ湖を渡ります。モーセの後を大きな民衆共同体がついて行ったように、イエスの後を大勢の群衆がついて行きます。モーセが山に登ったように、イエスも山に登ります。モーセの旅が最初の過越祭の後に始まったように、イエスの旅も過越祭の時期に始まります。しかし、イエスがモーセよりも偉大であることに注目しましょう。6章32節でイエスが群衆に思い起こさせているように、「はっきり言うておく。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる」のです。群衆に食べ物を与えることにおいて、イエスはモーセができなかったことを行っています。それによって、モーセより偉大であること、イエスは御父と同じ働きをしていることが明らかにされているのです（出エジプト記16章1-5節、詩篇105篇40節を参照）。

◆質問6：他にどんな象徴的な意味が考えられますか？

◆質問7：それらの象徴的な意味は、あなたの状況にどのように関係しますか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、次の結びの質問に移ってください。

◆質問8：この聖書の学びは、あなたにとって個人的にどんな意味がありましたか？

この質問について十分に話し合う時間を持った後、次の祈りをもって結びましょう。

恵みあふれる神よ、あなたは人類を深く愛されているしるしとしてイエスを派遣されました。私たちのまわりにいる病に苦しむ人や飢えている人へのあなたの働きに、ランベス会議に集っている私たちの主教やその伴侶の方々と共に、私たちも参与させてください。

アーメン

## 湖の上を歩くしるし

ヨハネによる福音書 6章 16-21 節

---

---

祈りをもって聖書の学びを始めましょう。

グループで学ぶ場合は一人が聖書箇所を声に出して朗読しましょう。一人で学ぶ場合は、ゆっくり、丁寧に、聖書箇所を読みましょう。

---

しばらくの沈黙の後、以下を読んで下さい：

この忘れがたい出来事は、五千人に食べ物を与えたすぐ後に起こります。多くの人の前で示されたそのしるしとは異なり、このしるしは人目のほとんどないところで示されます。暗い夜の荒れた湖での出来事で、数人の弟子たちによって目撃されただけです。この聖書箇所はわずか6節で構成されており、しるしについて書かれている中で最も短いものです。

◆質問1：この聖書箇所は、これまで、あなたにとってどんな意味がありましたか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

五千人に食べ物を与える物語と同様に、ここに書かれている出来事は、出エジプト記のイスラエル人の素晴らしい物語を思い起こさせます。ヨハネは、4節で過越祭が近づいていたと書くことで、ここを読む際には出エジプト記に留意するよう示唆しています。ヨハネは、他の福音記者と同様に、聖書（私たちにとっての旧約聖書）の語彙を用いて、イエスについての話を記録したのです。そこで、この聖書箇所を学ぶのに旧約聖書が手元にあると助けになります。まずは出エジプト記 14章 21-27節を読みましょう。

◆質問2：湖上のイエスについてヨハネが書いていることで、あなたに出エジプトの出来事を思い出させるのはどんな点ですか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

このしるしがイエスが湖上を歩くことをその内容としているのなら、それは何を意味しているのでしょうか。旧約聖書の二つの伝承によって私たちの理解は深められるでしょう。その一つは、アブラハムの生まれ故郷であるメソポタミアの、広範に影響を及ぼした宗教的伝承に起源があります。メソポタミアの創造神話では、膨大な原初の水が存在して宇宙を満たしていたと語られていました。この原初の水は、より若い神々を全て食べ尽くす恐ろしい竜として具象化されていました。一人の強くて若い神が、この混沌の竜を、その背に立ち、遂にはそれが貝であるかのように真二つに切り裂いて打ち負かしました。そして彼は、二つに切り分けた水の間で空いた空間で世界の創造を始めたのでした。イスラエル人は神を讃えるために、この古代のよく知られた創造神話を詩的に翻案して使ったのです。例えば、詩篇第74篇 12-17節、89篇 5-11節におけるように。今日の聖書の学びに

もっと関連があるのは、ヨブ記 9 章 8 節の、主が海の怪物の背を歩かれるという詩的描写や、詩篇第 77 篇 16-20 節の、主が海を通って行かれるという詩的描写です。イスラエル人は、彼らの生の中で働く神の神秘を表現するのに、その時代の語彙を用いていたのです。彼らにとって、創造の第二日に水を分けたのは主であり(創世記 1 章 6-8 節)、神の民を救うために葦の海を二つに分けたのは主でした。

以上のことを踏まえると、ヨハネ福音書のこの物語の申し立てを聞くことができ、息をのまされます。この箇所で語られているのは、イエスが自然の法則に縛られていないことを証しするための派手な奇跡などではありません。そうではなく、ヨハネは、イエスが誰であるかについて遙かに深遠なことを語っているのです。「あなたの道は海の中にあり、あなたの通られる道は大水の中にある。あなたの踏み行かれる跡を知る者はない。」(詩篇第 77 編 19 節) ポイントは、イエスが水の上を歩けることにあるのではなく、イエスが海を支配しておられることにあります。この地上のイエスは、イスラエルの贖い主である天と地の創造主の栄光を目に見えるものにします。

イエスの正体の衝撃的な明かしは 20 節の弟子たちへの言葉に続きます。「わたしだ」というイエスの挨拶は、ギリシア語で文字通りには「わたしはある (ἐγώ εἰμι)」であり、これはもちろん、燃える柴の中から神がモーセに告げた御名です(הָאֵשׁ הָאֵשׁ (*Ehyeh asher ehyeh*)-出エジプト 3 章 13-14 節)。イエスは幾度もこの言葉で自らを言い表しており(例えば、8 章 58 節、18 章 6 節)、ヨハネ福音書でそれは肩書きか名前のようになっています。「恐れることはない」という言葉は、聖書で神的存在が人の前に顕現するときしばしば聞かれるものです(創世記 15 章 1 節、士師記 6 章 23 節)。イエスの弟子たちは、「わたしだ。恐れることはない」というイエスの言葉を、自分たちを安心させる人の言葉として聞きつつ、神の宣言としても聞いたのでしょう。ヨハネはイエスの言葉を複数の次元で聞くように誘っているようです。

◆質問 3：この物語におけるしるしは何でしょうか？神の栄光が夜の荒れた海で明かされるということは、あなたにとって何を意味しますか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

21 節の結末は、私たちの注意をイエスから弟子たちと舟に向けます。「間もなく」という言葉の効果は何でしょうか。もう一度ヨハネは、ただ材料を広げ、読者が自分で料理するよう招きます。「信じてイエスの名により命を受けるため」に(20 章 31 節)。

◆質問 4：21 節の物語の結末を、あなたはどのように理解しますか？この節の二つの文はどんな関係にあるのでしょうか？

この質問について十分に話し合う時間を持った後、次の祈りをもって結びましょう：

主イエスよ、私たちに知恵と忍耐をお与え下さい。嵐や暗闇の中にあっても、あなたがおられることが分かりますように。アーメン

## 生まれつきの盲人のしるし

ヨハネによる福音書 9章 1-41節

---

---

祈りをもって聖書の学びを始めましょう。

グループで学ぶ場合は、ゆっくり、劇仕立てで朗読しましょう。語り手、弟子、イエス、隣人、盲人、ファリサイ人、ユダヤ人、両親の役が必要です。一人で学ぶ場合は、聖書箇所を注意深く読みましょう。

---

しばらくの沈黙の後、以下を読んで下さい：

ヨハネがこの福音書で取り組んでいる問題の一つは、災いの問題です。5章の癒しの物語は、災いに対する伝統的な見方を表していました。すなわち、病や災いは罪によるものと見られていました。ベセスダの池畔で体の麻痺した男を癒すとき、イエスは男の罪も赦し、もう罪を犯してはならないと言われました。9章でヨハネはまだ同じ問題に取り組んでいますが、ただ今度はイエスの弟子の口を通して語っています。生まれつきの盲人を見たとき、弟子たちはイエスに尋ねます。「ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。」

イエスの返答は弟子たちを動揺させるものでした。池畔の男の場合は体の麻痺がその人の罪と関係づけられていましたが、今度は、「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」と答えられたのです。

◆質問1：あなたたちの間では、災いの問題はどのように取り組まれていますか？災いはどのように見られていますか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

私たちは弟子たちのように考えがちです。災いや病の「原因」について問うのです。この物語でイエスは「原因」に関する問いを避けているように思われます。イエスは、男の目が見えない原因でなく、神がいかに癒しと十全性(wholeness)をもたらす働きをされるかということに注意を向けます。

◆質問2：私たちが病や災いに対していくとき、どうすれば「原因」の問いを避けることができるでしょうか。

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

ベセスダの池畔では、イエスは体の麻痺した男を癒すのに言葉を用いられました。しかし今回は他の手段を使っています。土と唾で、盲人を癒されます。

◆質問3：あなたの教会や地域には、病を癒すために身の回りにどんな手段がありますか？

この質問について話し合ったり考えたりする時間を持った後、以下を読んで下さい：

8章12節の「わたしは世の光である」というイエスの言葉は私たちに惹きつけます。9章でイエスは盲人に肉体的にも霊的にも見る力をお与えになることで、イエスが本当に光であることを実際に示します。盲人は霊的な見る力を少しずつ得ます。はじめ彼はイエスを癒す人であると言い(11節)、次に預言者であると言い(17節)、そして最後には「人の子」であると言うのです(35節)。

◆質問4：盲人がイエスについての理解を深めていく各々の段階で、何がそれを可能にしたのでしょうか？

盲人と五つの種類の人々が関わり合っています。イエスの弟子たち(2節)、盲人の隣人や知人たち(8節)、ファリサイ人(13節)、ユダヤ人の指導者たち(18節、24節)、そして盲人の両親(20節)です。

◆質問5：盲人とそれぞれの人々との関係の特徴付けているのは何でしょうか？

◆質問6：イエスのよき証言者としてあることについて、またイエスのよき証言者になることについて、盲人と、これら各々の人々から学ぶことは何でしょうか？

この質問について十分に話し合う時間を持った後、聖書の学びを祈りで結びましょう。とくに主教とその伴侶の方々のことを覚え、今年のランベス会議の中で新しい洞察が得られるようにお祈りしましょう。

---

## 七つめのしるし:ラザロを生き返らせる

ヨハネによる福音書 11 章 1-44 節

---

---

祈りをもって聖書の学びを始めましょう。

---

はじめに以下の註を読んで下さい：

ラザロを生き返らせる物語がヨハネ福音書の七つ目の最後のしるしです。全てのしるしは私たちを十字架に向かわせる「道しるべ」でしたが、このしるしは特別な力強さをもって私たちを十字架に向かわせます。イエスがラザロの病いのことを最初にお聞きになったときはエルサレムから離れた安全なところにおられました。ラザロを癒すためには危険を冒してエルサレムのすぐ近くのベタニアまで戻らなければなりません。トマスの不吉な予測がイエスを待ち受ける危険を予示します。「わたしたちも行って、一緒に死のうではないか。」(11 章 16 節)そしてこの物語の終わりで、ラザロを生き返らせたことによって引き起こされた人々の興奮を見た大祭司はイエスを殺すことを決めます。親しい友に命を与えるこの愛の行為はイエスに自らの死をもたらします。この物語は「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」という 15 章 13 節のイエスの言葉に具体的に光をあてるものです。ラザロが生き返り、家族のもとに戻るとすぐに、不可避的にイエスの受難が中心舞台となります。

ここでヨハネ福音書 11 章 1-4 節を読んで下さい。グループで学んでいる場合は、語り手、イエス、トマス、マリア、マルタのそれぞれに役をふって朗読してください。ただし、次の三つのイエスの命令は全員で朗読して下さい:「その石を取りのけなさい」(11 章 39 節)、「ラザロ、出てきなさい」(11 章 43 節)、「ほどこいてやって、行かせなさい」(11 章 44 節)。一人で読む場合は、これら三つの命令を読む度に、短い沈黙をはさんでください。

この物語の注目すべき特徴は、イエスがベタニアの一家に抱かれている親密な愛情が示されていること、そしてその愛情の結果としてイエスが負われることになる苦しみです。ヨハネ福音書で唯一この「しるし」に関する箇所、全ての主な登場人物が一人一人指されています。そして読者はイエスが彼らを愛しておられたことをはっきり知らされます(11 章 3-5 節)。イエスは涙を流されるだけでなく(11 章 35 節)、ひどく心を騒がされていることが強調されています(11 章 35、38 節)。この「しるし」は、イエスを、死者を生き返らせる力において最も神的な姿において明かし、また最も人間的な姿においても明かしているのです。このことはとても重要です。

この課の註の筆者の夫は病院のチャプレンをしています。彼は仕事を通して、西欧社会の一般の人に比べてずっと多く死と向き合ってきました。肉体的な死は普遍的な人間の現実であって、私たちの世界の誰にでも遂には訪れるものです。地域によっては肉体的な死があまりにも早い現実があり、そこでの私たちの課題は「石を取りのけ」、そんな死の現実をあらしめている諸力から人々や国々を「ほどこく」ことかもしれません。しかし、全ての人

は死にます。ラザロもやがては再び人間的な死をむかえます。誰であつても他者に対してできる最も価値のあることの一つは死にゆく人と親しく個人的に関わることであることを、病院にチャプレンとして従事していると経験します。それによって私たちは、神の目に一人一人が大切な存在であることを覚え、人間の中にある神の姿に栄光を帰すのです。誰であれ名のない者として死んだり、病院の非人格的な関係の中で死んだりすることがあってはなりません。死への旅路にある人に愛情をもって寄り添うことは、キリスト教の宣教の核心に位置します。

◆質問1：死への途上にある人に付き添った経験を分かち合ひましょう。あなたにとって、また死を前にした人にとって、どんなことが助けになりましたか？どんなことが付き添いを困難にしましたか？

イエスはラザロと彼の姉妹に、未来の「終わりの日に」、「あなたの兄弟が（そして私たちが！）復活する」という約束を与えているだけではありません。イエスが悲しむマルタにかける言葉の時制は現在形です：「わたしは復活であり、命である」。イエスの宣教と死を通して永遠の命が“いま、ここ”に溢れかえってきていることを、この物語は示唆しています。私たちの多くは、悲しみ、失望、失われた希望、心乱される記憶で満たされた墓のようなものを抱えています。イエスは、私たちを、そのような墓から「出てきなさい」と招き、いえ、呼び出し、今日にあつても私たちに差し出されている新しい命の光のうちに、御自身の死と復活によって迎え入れようとされているのです。この課で掲載している絵画「クッカムでの復活」には、英国の田園にある教会の墓地が復活におそわれている光景が描かれています。この絵を見て、驚く人もいるでしょうし、ぞっとする人もいるでしょう。この絵は復活の意味についての対話に私たちを招いています。描いた画家スタンリー・スペンサーは、なぜこの絵を描いたのかを説明しようとして、次のように話しました。「教会の墓地は、天国の聖なる郊外です。今の命が次の命への鍵であるということにおいて、私は次の命について知ります。そして復活の命において、私は今の命における復活について知るのです。」

しかし、そのような復活の「しるし」のもとで私たちの命を生きることは時に危険なものです。イエスとその弟子たちが経験したように、奇跡によって信仰に導かれる人々もいますが、心をかたくなにする人々もいるのです。この道しるべは、私たちをどちらの方向に導くのでしょうか。

以下の質問について話し合ったり考えたりしてください：





Stanley Spencer, Resurrection in Cookham Churchyard. © The Estate of Stanley Spencer 2008. All rights reserved DACS 2008

◆質問2：「クッカムでの復活」の絵を見てください。まずどんな印象を受けますか？この絵は細部まで描き込まれていますが、特に何か注意をひかれる人物や部分がありますか？この絵は、「永遠の命」についてどんなメッセージを伝えているのでしょうか？

◆質問3：福音書に記されている次の三つの言葉について考えましょう：「その石を取りのけなさい」、「ラザロ、出てきなさい」、「ほどいてやって、行かせなさい」。これらの言葉を聞くことが必要だった状況をあげて、話し合しましょう。

◆質問4：イエスとマルタの間の会話に注意を向けましょう。ルカによる福音書の場合（10章38-42節）と比べてみて、ここでマルタはどのように描かれているのでしょうか。女性の生と奉仕職について、私たちはヨハネ福音書から何を学ぶことができるのでしょうか。

次の詩を読み、黙想し、祈りをもって聖書の学びを結びましょう。

## ◆詩

かわいそうに、ラザロは病気です。  
ラザロの姉妹はおびえています。  
これまで知っていた世界が脅威にさらされています。  
イエスはまだ来ません。

我が友ラザロ、彼は眠っています。  
死の眠りについています。  
主は、知っています。  
ラザロが最期の息をひきとったことを。

愛しいラザロは死んでいます。  
墓に埋められています。  
イエスは泣き、祈り、言いました。  
「その石を取りのけなさい」

「ラザロ、出て来なさい！」  
すぐに神の栄光が現れることでしょう。  
そしてベタニアは踊り、歌うでしょう。  
目を開き、輝かせながら。

ラザロよ、そうです。私たちは死にます。  
私たちの働き、私たちの夢は潰えます。  
でも、神はキリストにあつて立ち上がります。  
そして愛の計画が打ち勝ちます。

(デイヴィッド・マウブレイ)

## ◆祈り

復活され、復活させる主よ  
あなたは友を深く愛されました。  
その愛の故に、あなたは涙を流し、傷つき、苦しみながら、  
御自分の死に至るまで彼らを愛されました。  
この愛を通して、あなたは私たちにしるしをお与えになりました。  
あなたの道を指し示してください。  
私たちの石の心を癒してください。  
私たちを縛るものの全てから解き放ってください。  
そして、命の充満のうちへと私たちを迎え入れてください。  
アーメン

---

## 結び

---

---

ヨハネによる福音書の七つのしるしによって、私たちは十字架まで導かれました。十字架と復活を通して、神は、イエスの働きと宣教が命を与えるものであることの確信と認証を与えられ、新しい創造が始まったのです。

しかしヨハネの物語も、私たちの物語も、ここで終わりません。私たちは、この新しい創造が花を咲かせ、果実を実らせるための神の働きに参加するよう招かれているのです。最初の弟子たちと同じように、全ての場所と人において聖霊の力によって神の贈り物と御計画を現実のものとするため、私たちはイエスによって派遣されます。

ヨハネ福音書の最後の章は、それがどのようなものとなるかについて「しるし」を与えています。この章の核心には魚をとる奇跡の物語があります(21章1-14節)。弟子たちはガリラヤに戻り、元の漁師の仕事につきます。しかしイエスが彼らのところに来るまで、何もとれません。イエスの指示に従ったところ、種々のたくさんの魚をとることができたのでした。新しい創造のありあまる豊かさが、そこに明らかにされています。イエスの道を行く者は、そこで生きるのです。

過去は忘れられていません。魚を料理する湖畔の炭火とペテロへの三度の問いかけ(21章15-19節)には、イエスが十字架にかけられる前の晩に、ペテロが大祭司の屋敷の中庭で火にあたりながら三度イエスを知らないと言ったことを思い起こさせる意図があります。しかし、過ちは忘れられてはいないものの、イエスが友に示した愛情を通して、ペテロには、そして私たちには、新しい日の可能性が与えられています。赦しは、ペテロに与えられた仕事によって示されています。「わたしの羊を飼いなさい。」魚をとる者が羊を飼う者にもなるように求められています。この復活の時にあって、私たち全てに赦しが与えられ、新しい仕事が与えられるのです。私たちは、自分自身で可能だと夢想だにしなかったような者となって、私たちの世界のための神の働きにおいて、キリストの共働者となるよう招かれています。どちらに進めばよいのか、どうやって知ることができるのでしょうか。「あなたは、わたしに従いなさい。」これが、ペテロに最初に語られ、2000年にわたって今なお私たちにも語られつづけている、福音書に記されたイエス御自身の最後の言葉でした。

---